



第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(40点)

そろそろ僕らはものを捨ててくれないといけない。捨てることを「もったいない」と考えてはいけない。捨てられるものの風情に感情移入して「もったいない」と感じる心持ちにはもちろん共感できる。しかし膨大な無駄を排出した結果の、廃棄の局面でのみ機能させるのだとしたら、その「もったいない」はやや鈍感に過ぎるかもしれない。廃棄する時は遅いのだ。もしそういう心情を働かせるなら、まずは何かを大量に生産する時に感じた方がいいし、さもなければそれを購入する時に考えた方がいい。もったいないのは、捨てることではなく、廃棄を運命づけられた不毛なる生産が意図され、次々と実行に移されることではないか。

だから大量生産という状況についても少し批評的になった方がいい。無闇に生産量を誇ってはいけないのだ。大量生産・大量消費を加速させてきたのは、企業のエゴイスタックな成長意欲だけではない。所有の果てを想像できない消費者のイマジネーションの脆弱さもそれに加担している。ものは売れてもいいが、それは世界を心地よくしていくことが前提であり、人はそのためにものを欲するのが自然である。そして必要でもないものを溜め込むことは決して快適ではないし心地よくもない。

良質な旅館に泊まると、A 感受性の感覚が数ランク上がったように感じる。それは空間への気配りが行き届いているために安心して身も心も解放できるからである。しつらいや調度の基本はものを少なく配することである。何もない簡素な空間にあつてこそ、畳の目の織りなす面の美しさに目が向き、壁の漆の暖い風情にそそられる。床に活けられた花や花器が目向き、料理が盛りつけられた器の美しさを A 堪ノウでさる。そして庭に満ちている自然に素直に意識が開いていくのである。ホテルにしても同様。簡潔に極まった環境であるからこそ、一枚のタオルの素材に気を通わせることができ、バスロープの柔らかなさを楽しむ肌織細さと呼び起こされてくるのである。

これは一般の住まいにも当てはまる。現在の住まいにあるものを最小限に絞って、不要なものを処分できれば、住空間は確実に快適になる。試しに夥しい物品のほとんどを取り除いてみればいい。おそらくは予想外に美しい空間が出現するはずだ。

無駄なものを捨てて暮らしを簡潔にするということは、家具や調度、生活用具を味わうための背景をつくるということである。芸術作品でなくとも、あらゆる道具には相応の美しさがある。何の B へん哲もないグラスでも、しかるべき水を入れてウイスキーを注げば、めくるめく琥珀色がそこに現れる。霜の付いたグラスを C ユウ雅な紙敷の上にびしりと置ける片付いたテーブルがひとつあれば、グラスは途端に魅力を増す。逆に、漆器が艶やかな漆黒をたたえて、陰影を礼讃する準備ができていたとしても、リモコンが散乱していたり、ものが溢れかえっているダイニングではその風情を味わうことは難しい。

白木のカウンターに敷かれた一枚の白い紙や、漆の盆の上にことりと置かれた青磁の小鉢、塗り碗の蓋を開けた瞬間に香りがつ出汁のにおいに、ああこの国に生まれてよかったと思う D 高トウな緊張など日々の暮らしに持ち込みたくはないと言われるかもしれない。緊張ではなくゆるみや開放感こそ、心地よさに繋がるのだという考え方も当然あるだろう。家は休息の場でもあるのだ。しかし、だらしないさへの無制限の許容がリラクゼーションにつながるという考えは、ウ ある種の墮落をはらんではいまいか。ものを用いる時に、そこに E セン在する美を発揮させられる空間や背景がわずかにあるだけで、暮らしの喜びは必ず生まれてくる。そこに人は充足を実感してきたはずである。

伝統的な工芸品を活性化するために、様々な試みが講じられている。たとえば、現在の生活様式にあったデザインの導入であるとか、新しい使い方の提案とかである。自分もそんな活動に加わったこともある。そういう時に エ 痛切に思うのは、漆器にしても陶磁器にしても、問題の本質はいかに魅力的なものを生み出すかではなく、オそれらを魅力的に味わう暮らしをいかに再興できるかである。漆器が売れないのは漆器の人氣が失われたためではない。今日でも素晴らしい漆器を見れば人々は感動する。しかし、それを味わい楽しむ暮らしの余白がほとんど失われているのである。

伝統工芸品に限らず、現代のプロダクツも同様である。豪華さや所有の多寡ではなく、利用の深度が大事なのだ。よりよく使い込む場所がないと、ものは成就しないし、ものに託された暮らしの豊かさも成就しない。だから僕たちは今、未来に向けて住まいのかたちを変えていかなければならない。育つものはかたちを変える。「家」も同様である。

ものを捨てるのはその一歩である。「もったいない」をより前向きに発展させる意味で「捨てる」のである。どうでもいい家財道具を世界一たくさん所有している国の人から脱皮して、簡潔さを背景にもの素敵さを日常空間の中で開花させることのできる繊細な感受性をたずさえた国の人に立ち返らなくてはいいけない。

持つよりもなくすこと。そこに住まいのかたちを作り直していくヒントがある。何もないテーブルの上に箸置きを配する。そこに箸がびしりと決まったら、暮らしはすでに豊かなのである。

(原 研哉『日本のデザイン―美意識がつくる未来』による)

問1 傍線部A～Eのカタカナを漢字で書き表すとき、それと同じ漢字を使うものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は、Aが 1、Bが 2、Cが 3、Dが 4、Eが 5。

A 堪ノウ

- ① ノウ税は国民の義務だ。
② 味付けがノウ厚だ。
③ ノウ作業に従事する。
④ ノウ楽を鑑賞する。

B へん哲

- ① 手紙のへん事を書く。
② 雑誌をへん集する。
③ 天氣が急へんする。
④ 木へんに名前を刻む。

C ユウ雅

- ① ユウ大な富士山を仰ぐ。
② 出来事のユウ因は何だ。
③ だんぜんユウ位に立つ。
④ 内ユウ外患ばかりだ。

D 高トウ

- ① 議論が沸トウする。
② 船に燃料をトウ載する。
③ 南極をトウ査する。
④ 彼の勢いに庄トウされた。

E セン在

- ① セン載一隅のチャンスだ。
② セン水艦を見学する。
③ 奈良へセン都を行う。
④ 推セン圖書を購入する。

問2 傍線部イ・エについて、文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は、イが 6、エが 7。

イ 刹那

- ① きわめて短い時間
- ② やりきれなさ
- ③ 不確実さ
- ④ 心からの希望

エ 痛切に思う

- ① とても不愉快に感じる
- ② 心から残念に思う
- ③ 責任を感じて辛く思う
- ④ 強く身にしみて感じる

問3 傍線部ア「感受性の感覚が数ランク上がったように感じる」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 良質な旅館は何もない空間が広がっており、しつらいや調度が最小限なので、改めてものを捨てることの大切さを再認識すること。
- ② 客室から眺める庭の自然の美しさに触発されて自分の感性が研ぎ澄まされ、物事の本来の美を鋭く感知できるようになるということ。
- ③ 床の花や料理が盛られた器のみことと心を奪われると、周囲にある物の美を丁寧に味わおうという意識がさらに高まるということ。
- ④ 空間への気配りが行き届いていると、人間が本来持っている繊細な感性が解放され、物の美しさを敏感に感じ取るようになるということ。

問4 傍線部ウ「ある種の堕落」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① ゆるみや開放感の心地よさを一度でも味わうと、日常に存在する美しさが煩わしくなってしまうということ。
- ② だらしない生活が当たり前になってしまった結果、伝統工芸品の美しさから目を背けてしまうようになるということ。
- ③ だらしないさから生まれる心地よさを優先し、日々の充足感をもたらず日常の緊張を放棄してしまうということ。
- ④ 片付かない部屋の中で生活することに開放感を覚えて、わざと部屋を散らかし放題にしてしまうということ。

問5 傍線部オ「それらを魅力的に味わう暮らしをいかに再興できるかである」に込められた筆者の考えを説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 大量生産されたものを次々に消費することを「もったいない」と思わず、空間を道具で満たす充足感を得ることが本来の暮らしのあり方なので、魅力的な作品をたくさん所有し、心ゆくまで鑑賞できる暮らしに立ち返ることが大切である。
- ② 伝統的な工芸品を新しく創作したり新しい用方を工夫したりするところから生活の余裕が生まれるので、すたれてしまった工芸品を新しく現代のプロダクトとして生まれ変わらせようとする意識が、暮らしの再興に繋がらずである。
- ③ ものが溢れかえっている日常生活に浸っているのは、新しく魅力的な工芸品を生み出すような仕事はできないので、無駄なものは捨て去り必要かつ十分な道具だけを身の回りに置いて、創造性にあふれた生活をしようという意識が肝要である。

④ 家財道具を無駄なくかつ十分に使いこなす空間を確保することが暮らしに余白を作り生活の豊かさに繋がっていくので、どうしてもいい無駄な物をきっぱりと捨て去り、繊細な感性を取り戻すことが出来る環境を整えるべきである。

問6 波線部について、「陰翳礼讃」の作者を、次の①～④の中から一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 夏目漱石
- ② 森鷗外
- ③ 武者小路実篤
- ④ 谷崎潤一郎